

鳥取県教育振興基本計画の意見募集結果概要

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 実施期間 平成25年12月2日～平成26年1月10日
- (2) 応募方法 郵送、ファクシミリ、電子メール、説明会等での意見聴取
- (3) 応募件数 99件(34人)

2 主な意見と対応方針

| 意見の概要 | 対応方針 |
|--|--|
| 鳥取県教育の基本理念 | |
| 基本理念には、共感できる。 | ご理解いただき、ありがとうございます。 |
| 基本理念が長い。短くしないと憶えられない。 | 目指す鳥取県の教育への共通認識を図るための理念であり、現在の基本理念より長くなりますが、ふるさとに根ざした未来志向の理念を表現したいと思います。 |
| 自立するためには、その前に協同が必要。震災のあとでもあり、「協同」という言葉で、県の特徴を出してもいい。 | 「自立」という言葉には、他者との協調、協働を含めた意味を持たせています。そうした趣旨が分かり易くなるように、考え方に関する記述を修正します。 |
| 基本理念から力までに、「共生の」という言葉がほしい。一本貫かれた理念が必要。「学ぶ意欲を高める学校教育」の中の特別支援教育は付け足しのような印象を受ける。 | 「力と姿勢」に「共に生きる」という表現を追加します。また、特別支援教育の考え方による教育実践が、障がいがある、ないに関わらず、学校教育の充実の基礎となるものであることから、「特別支援教育の充実」の項目順を引き上げます。 |
| 文字数を抑えて表現したいという意図は分かるが、その内容が抽象的であり、どのような教育を行うべきかという理念としては、不十分である。児童の権利に関する条約に照らして、具体的な指針としてふさわしい基本理念を作成すべき。 | より広い概念をもれなく、正確に表現することは大切ですが、長文になると計画が伝わりにくくなることも考えられ、できるだけ短い表現としたいと考えています。 本計画は、今後5年間の計画ですので、まずは、計画期間内は、案で定めようとする内容に力を入れていきたいと考えています。 |
| 育てるべき力、姿勢が不足している。 「子どもの意志表明権」「平和を愛する」「自発的な遊びを楽しむ」「全ての国人々への理解、寛容」「両性の共同によって社会や文化を育む」「正義と法遵守の精神」など | |
| 第3項目の「志を高く持ち～」を削除して、「自分らしい生き方と夢を大切に、生涯、ひととして充実した生活を送る姿勢」とすべき。志が高いか低いかは、個人の自由であり、人にとやかくいわれるものではない。立派なエリートや事業家だけに価値があるかのような誤解を生みかねない表現である。 | 「志」は、心に決めた目標、信念などであり、一人一人異なります。人から立派と言われることを目指すことではなく、自分なりにより良く、自分らしく生きようとするのも「志」と考えています。 |
| 「豊かな心と健やかな体」で「奉仕」と「文化、芸術、スポーツ、読書」とは、同列とは思えない。どんな社会活動を行うかは、個人の自由だが、「奉仕」には、義務的、支配的な雰囲気がある。項目を分けて、「自由にボランティアなどの社会活動に取り組む姿勢」とするのが良い。 | 「力と姿勢」ごとに項目数を揃えていることから、項目は分けませんが、ご指摘を踏まえ、芸術等と「奉仕」を区切るとともに、「ボランティア」という表現に改めます。 |

| | |
|--|---|
| 4つの「力と姿勢」は、現行計画の表現に比べて、わかりやすく的確に表現されている。全面的に賛成である。 | ご理解いただき、ありがとうございます。 |
| 「豊かな未来を切り拓き、創造する」について、自ら判断することの重要性、みんなが同じ方向を向くのではなく、一人一人が判断していくことが必要という様なことを文章として入れてほしい。 | ご指摘を踏まえ、基本理念の設定の考え方の中で、記述することとします。 |
| 5つの目標と18の施策 | |
| 公立と私学の分けが明確に表記されていない。県民が混乱しないように、目標に私学の振興を加え、6本の柱としてほしい。また、担当課を明示するのがよい。 | 他の施策とのバランスも考え、目標の追加は行いませんが、所管を明示するなどして、担当所属が混在しないようにします。 |
| 「家庭教育の充実」を目標1「社会全体で学び続ける環境づくり」の一番目の項目施策としてはどうか。 | 人間関係が弱まり、家庭教育が困難な社会となっており、家庭における教育の充実のため、まずは社会全体で子育て家庭を支えることが必要と考えています。施策の順序は変えませんが、家庭教育の充実にしっかりと取り組みます。 |
| 「幼児教育の充実」を目標2「学ぶ意欲を高める学校教育の推進」の一番目の項目施策としてはどうか。 | 幼児期は、全ての力の基礎作りの時期であることから、ご指摘を踏まえ、項目順を引き上げます。 |
| ○目標1 社会全体で学び続ける環境づくり | |
| 中高生の読書時間が短くなっていることについて、家庭の協力はもちろん大切だが、中高生に対する読書指導の在り方を学校がさらに工夫していくことがまず必要ではないか。 | 読書時間の増加には、夜や休業日、つまり家庭での読書時間の増加が必要です。学校においても家庭読書を促すよう、読書の重要性を指導したり、読書意欲を喚起する働きかけを行うことも大切ですので、「学校と家庭が連携して家庭読書につながる働きかけを行う」ことを記述します。 |
| 博物館、美術館と学校の連携は、ずっと、言われているが、実際には、実現していない。取組は、承知しているが、海外では、子どもたちがそういう施設に沢山来ている。親が連れて行けない子どもをどうするか。学校教育にどう入れていくかが重要である。 | ご意見を参考にさせていただきながら、引き続き、有効な方策について検討します。 |
| ○目標2 学ぶ意欲を高める学校教育の推進 | |
| TVゲームやインターネットの影響について、社会全体で煽っているような現状で、子どもたちだけを問題視することはおかしい。メディアとの接触のために、健康の問題や学習習慣の定着を阻害したり、生活リズムの乱れによる不登校が発生している例もある。子どものまわりにいる大人の意識を変えていかなくては、改善は望めない。 | ケータイ・スマホ、インターネット、ゲームに関しては、社会や大人側からの視点で目標1に、また、学校や子ども側の視点で目標2に、記載しています。大人や社会の意識改革は大変重要と考えておりますので、メディアへのよりよい接し方について、保護者をはじめとした大人に対する教育啓発を継続して実施します。 |
| 学力向上の数値目標で示されている3つの観点から見たものが、学力の全体像だということが、計画の中でも、見えてくる必要がある。学力調査だけでなく、全体が揃って学力なんだということを前に出してほしい。 | ご指摘も踏まえ、目標2の前文において、学力を測る指標の考え方などについて、記述します。 |
| 子どもが生きる力を育むことができ、読む力を養うことのできる本に出会うことが肝要。読む力が高まれば、内容の希薄なメディアではもの足らなくなるのではないか。読書環境を整えるために、蔵書冊数の増加としっかりとした選書のできる司書の養成が必要である。 | 市町村教育委員会、市町村図書館等と連携し、小・中学校、高等学校、特別支援学校の司書を対象とした研修会の開催や講師派遣、学校への訪問相談の実施など、教職員の資質向上に取り組むこととしています。ご指摘を踏まえ、計画にもそうした内容を追加します。 |

| | |
|--|--|
| <p>いじめを子どもの中で解決していくということを入れてほしい。「予防教育」という言葉が入らないか。子ども同士が認め合うとか、解決し合うといった記述がほしい。</p> | <p>予防教育については、すでに学校で取り組んでいる内容も含まれていますが、一定範囲の内容をどの授業や活動の場で行うかといった点の整理が十分されておらず、現段階では、計画に盛り込むことは困難です。子どもたち自身によるいじめの防止や解決は、いじめ問題の本質的な改善に関わる重要な課題と認識しており、各学校で積極的に取り組まれるように記述を修正します。</p> |
| <p>特別支援教育やインクルーシブ教育については、学校現場だけではなく、もっと社会へ向けて啓発をおこない、理解を得る必要がある。学校だけが手厚く対応しても、子どもが学校を終えて社会に出たときに、そのギャップの大きさに苦慮することになる。</p> | <p>特別支援教育の普及啓発については、施策項目を立てて取り組んでいます。ご意見を参考とさせていただきながら、引き続き、取組を進めていきたいと思えます。</p> |
| <p>○目標3 学校を支える教育環境の充実</p> | |
| <p>教職員の過重負担の解消で、事務処理面の効率の悪さの順位は低い。社会が変化する中で、教員の意識改革や新たな教育手法の修得に余裕がない状況。教員同士が、協働作業で課題を考え、解決策を設定し、ともに取り組むことが活力の源になる。</p> | <p>ご指摘を踏まえ、学校間、生徒間、教師間でつながり、学びあう環境づくりについて、施策項目に追加します。また、重点取組を学校裁量予算の活用やコミュニティースクール等、学校の自主性を発揮した取組推進に変更します。</p> |
| <p>「教員の資質向上や指導力、授業力の向上」が目標として掲げられており、賛成。そのための環境整備も不可欠。指導力及び授業力の向上のための時間的・精神的ゆとりを担保するマネジメントが不可欠である。</p> | <p>来年度は、学校管理職のための研修会等を企画しています。いただいたご意見を踏まえ、取組を進めたいと考えています。</p> |
| <p>○目標4 生涯にわたって運動スポーツに親しむ環境づくり</p> | |
| <p>「幼児期の1日60分運動」について、「運動＝スポーツ、体育」という目的的活動の導入といった限定的な理解にならないよう、留意する必要がある。</p> | <p>施策項目に『「1日合計60分」とは、様々な身体運動遊びやお手伝い等を合計した時間が60分です。』の記述を追加します。ご意見を踏まえながら周知を図っていきます。</p> |
| <p>スポーツの指標について、国体しかないが、生涯に亘ると言うのだから、「マスターズ」とか「運動習慣の状況」なども入っているべき。</p> | <p>競技力の向上の視点で国体の目標を挙げており、マスターズ大会を含めた生涯スポーツの目標として、成人のスポーツ実施率の数値目標を追加します。なお、小学生における運動実施の数値目標については、目標2に挙げています。</p> |
| <p>その他</p> | |
| <p>鳥取県教育振興に向けての計画（案）なので、将来的なプランということは理解しているが、精神論的表現を具現化することが重要。それぞれの立場で、このプランの意義をしっかりと把握し、実行、成果へと繋がるのが大切である。</p> | <p>鳥取県教育振興基本計画を実現するための効果的な施策の立案（実行計画であるアクションプランの作成）と、着実な施策の実施を進めるとともに、計画自体が定着するよう努めます。</p> |